

2018年8月19日(日)朝10:10
8月第3共同主日礼拝式説教

主の聖霊降臨節第14 自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：新しいエルサレムの生活

聖書:ヨハネの黙示録 21章22～27節

＜口語訳＞

新約聖書408頁

ヨハネの黙示録 21章22～27節

＜新共同訳＞

新約聖書479頁

ヨハネの黙示録 21章22～27節

＜新改訳第3版＞

新約聖書501頁

ヨハネの黙示録21章22～27節

＜塚本訳＞

新約聖書822頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」、神の御子イエス・キリスト様が、長老・使徒ヨハネに啓示の「神の国の奥義」、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代の事。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝、大讚美、6～13章は、聖徒、天使と龍、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々の裁きと信仰者への忍耐、15章は、金の怒りの鉢の神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、獣の座の暗黒の裁き、ハルマゲドンでの龍と獣と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章は、大群衆讚美・長老らの礼拝、仔羊婚姻への花嫁の招き、神の大宴会、ハルマゲドンでの神の大勝利、20章は、サタンの千年間の幽閉、殉教者らの復活、千年間王座、サタンの滅亡、死と陰府の葬り、21章1～8節は、花嫁と3つの聲、9～14節、新婦、15～21節、都の形成。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第21章22～27節から
主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録21章22～27節；ヨハネは、新婦・
新しいエルサレムの生活の啓示を見ました。

◇21:9～27；塚本訳；新しきエルサレム

「22 都の中には宮を見なかった。全能者たる
主なる神と仔羊とがその宮であるから
である。

23 また都はそれを照らすのに太陽をも月をも
必要としない。神の栄光がそれを照らし、
仔羊がその燈火であるからである。

24 諸国の民はその光の中を歩むであろう。
また地の王達は彼らの(有つ凡ての)光栄
をここに持って来る。

25 その門は一日中決して閉ざされない
であろう、其処には夜が無いのである。

26 諸国の民はその光栄と栄誉とをここに持つ
て来るであろう。

27 しかし凡ての穢れたもの、嫌悪むべきことと
虚偽とをする者は、決してここに入れぬ。

ただ仔羊の生命の書に(その名を)書かれている者だけがここに入るであろう。

◇22節;「全能者たる主なる神と仔羊とがその宮である」から、「都の中には宮を見なかった」と、読むことができます。

⇒ユダヤ人であるヨハネにとって、エルサレム＝**神殿(幕屋)**という発想で、都を思ってきたので、それは、想像を超えるものでした。

⇒「**幕屋**」は、エジプトの奴隷生活の脱却以来、「**神の臨在**」のしるしでした。

⇒「**神殿**」は、**ソロモンの神殿**が、イスラエルの人々のバビロン捕囚の時の再建の夢であったのです。

⇒「**神殿**」が、総督ゼルバベルと祭司ヨシュヤによる再建から始まり、エズラの生活再建、ネヘミヤの城壁修復に至った「**神殿**」が、民の現実に想像するもので、ローマのより破壊されたヘロデ神殿は、現在も再建の対象ではないほどです。

⇒「**都の中には宮を見なかった**」とは、この天の新しい都に導かれる者は、「**神と人**」が共に生活するという現実を見せられたのです。

- ◇23～24節; 「**都はそれを照らすのに太陽をも月をも必要としない**」、「**神の栄光がそれを照らし、仔羊がその燈火である**」、「**諸国の民はその光の中を歩む**」、「**地の王達は彼らの(有つ凡ての)光栄をここに持って来る**」と、都の生活の実体が語られています。
- ⇒「**主なる神と仔羊とがその宮である**」、「**神の栄光がそれを照らし、仔羊がその燈火である**」と、「**主なる神**」と「**仔羊**」とが、1つになり、「**諸国の民**」と「**地の王達**」を歓迎されます。そこには、影の要因・隠れた罪は、存在できないのです。すべての罪が赦されているのが、日常生活なのです。
- ⇒ですから、新天新地が啓示されて以来、人が初めて登場しましたが、「**城壁と門**」で囲まれた都は、民族、思想、文化の違いを越え、「**神の栄光**」に照らしだされています。
- ⇒「**神中心の生活・礼拝中心の生活**」が、新しい都の生活なのです。**神なき生活者**には、陳腐な空しい生活でも、**神中心の生活者**には、日々が充実しているのです。
- ⇒「**神礼拝**」が**充実していることが大事**です。

◇25～27節；「その門は一日中決して閉ざされないであろう、其処には夜が無いのである」、「諸国の民はその光栄と栄誉とをここに持って来る」、「凡ての穢れたもの、嫌悪むべきことと虚偽とををする者は、決してここに入れない」、「仔羊の生命の書に（その名を）書かれている者だけがここに入る」と、「神礼拝者の姿」が、「明確」です。

⇒「諸国の民はその光栄と栄誉とをここに持って来る」と「仔羊の生命の書に（その名を）書かれている者だけがここに入る」は、「神礼拝者」が何を日頃から大事に生きて来たが、「その門は一日中決して閉ざされないであろう、其処には夜が無いのである」という天の都の生活の実体と一致する日が来るのです。

⇒現実の**神のみことばに聴く生活**が充実していないで、急に天での**神のみこばを直接聞ける生活**が送れるか、真摯に問われます。

⇒都の光は、**神の栄光**、諸国の民が携え来るものも、自分の**栄光と誉れ**です。民は、都の**光・栄光の輝きに歩む**のです。**都は栄光!!**

結論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」、神の御子イエス・キリスト様が、長老・使徒ヨハネに啓示の「神の国の奥義」、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代の事。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝、大讚美、6～13章は、聖徒、天使と龍、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々の裁きと信仰者への忍耐、15章は、金の怒りの鉢の神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、獣の座の暗黒の裁き、ハルマゲドンでの龍と獣と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章は、大群衆讚美・長老らの礼拝、仔羊婚姻への花嫁の招き、神の大宴会、ハルマゲドンでの神の大勝利、20章は、サタンの千年間の幽閉、殉教者らの復活、千年間王座、サタンの滅亡、死と陰府の葬り、21章1～8節は、花嫁と3つの聲、9～14節、新婦、15～21節、都の形成。

◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇ヨハネ黙示録21章22～27節は、「**新しいエルサレム**」の生活は、「**神と羔羊の光・栄光**」中心で「**諸国の民が携えて来るのも、神と羔羊の栄光=自分の栄光と誉れ**」です。

⇒正四角形の「**都・新しきエルサレム**」は、「**城壁**」は**神の栄光**を表現し、「**門**」は、各方面3つで、どちらからでもでも入ることを許されています。「**諸国の民**」は、「**自分の栄光と誉れ**」を携えて来ることが何時でもできるのです。その都の生活のすべては、「**神の栄光**」です。

⇒かつて「**最後の七つの災厄が盛られた七つの鉢を持つ七人の怒りの天使**」さえ、今は、「**平和と祝福**」のため、先導して見せてくれる**神の愛のご配慮**の中で、**素晴らしい都**をヨハネは、**堪能**にしたことでしょう。私たちも、**自由の御霊に導かれて**、「**門と城壁**」に囲まれた**神の都に入る希望**と共に「**神の栄光・美しく飾られた城壁や門**」を中心に生活する**輝き**を現実生活に与えられたいと願います。

⇒教会は、「**神の栄光**」中心には遠い存在ですが、「**自由の御霊**」は今も働いておられます。